

平成24年3月37日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 紀伊國 献三 殿

施設名 福岡県糟屋郡志免町別府西3-8-15
社会医療法人 栄光会 栄光病院
代表者 理事長 下稲葉 康之



平成23年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 研究・研修事業 平成23年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業
- 2 期 間 平成23年4月1日 ～ 平成24年3月31日
- 3 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
(上記I～IIIをA4縦判・横書6,000字程度にまとめる)
 - IV 収支報告
 - ① 助成金の主な用途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)
 - ② 当該助成金に関わる部分の決算書「写」
(貴機関の全会計決算書でなく、当該助成計上部分のみで可)
* 決算期の関係で3月19日までに「写」を提出できないときは提出
予定日を記入(提出予定日 平成23年6月10日)
 - V 添付書類
当該施設の研修カリキュラム (パンフレットでも可)

I. 事業の目的・方法

1) 目的

末期がんやその他の重篤疾病による死亡者が年々増加する中、ホスピスや緩和ケア病棟に従事する熟練ナースの不足は深刻である。この事は、とりもなおさず一般病院・一般病棟におけるターミナルケアに対する認識・取り組み・経験が未熟であることを示している。ホスピス・緩和ケア体制の充実のためには、その事に関心のあるナースを育成し、ターミナルケアの裾野を広げることが先決であると考える。

したがって、

- ① 一般病棟における、ターミナルケアに対する意識の向上
- ② 一般病院・一般病棟における緩和ケアの充実
- ③ ホスピス・緩和ケア病棟に従事するナースの充足
- ④ ホスピス・緩和ケアの教育体制の充実を目指すことを目的として、研修活動を実施する。

2) 方法

- ① 笹川記念保健協力財団及び日本看護協会が選考した看護師に対し、指定された期間に実習を実施する。
- ② ナースのためのホスピス緩和研修実施要項の発送
(資料1～3参照)
- ③ 研修申込書に基づき受入れ準備
・緩和ケア病棟 ・宿泊寮
- ④ 研修担当者による打ち合わせ
・スケジュールについて
・実習担当について
・期間中の世話係について
(以上 資料4・5参照)
・その他の資料による案内
「栄光病院のごあんない」「手と目と(病院機関誌)」「ホスピス通信『ホスピトラ』」
「ホスピスのあんない」
- ⑥ 研修開始
・実習の進行状況把握、調整
・研修の目的が達成できているか、毎週金曜日に懇談会を持ち確認を行い修正する。
・希望に基づき、講義を行う。

II. 内容・実施経過

1) 研修内容

実習

- ① 日勤（希望があれば夜勤も）を勤務ナースとともに、患者・家族と接しながら、その技術的対応の仕方、精神的関わり、方法について学ぶ。
- ② 症状コントロールの実際を担当ナースについて学ぶ。
- ③ インフォームドコンセントの必要性・留意点を学ぶ。
- ④ チームの役割・チームアプローチについて実際を学ぶ。
- ⑤ ボランティア活動の実際を知る。
- ⑥ 回診に同行して、コミュニケーションの取り方・患者の反応を学ぶ。
- ⑦ 在宅ケアに同行して、実際を学ぶ。
- ⑧ 患者様の前夜式・お葬式・追悼祈念会への参加を通して、グリーフケアを学ぶ。

講義：希望時・必要時行う

- ① 全人的ケア
- ② 疼痛・症状コントロール
- ③ スピリチュアル・ケア
- ④ コミュニケーション
- ⑤ ボランティアの関わり など。

2) 実施経過

1) ナースのためのホスピス緩和研修実施スケジュールを土台に実施

- ① オリエンテーション
 - 研修全期間のスケジュール・内容
 - 研修期間中の心得
- ② 病棟におけるオリエンテーション
 - 病棟の構造
 - 一日の流れ（日勤・夜勤）
 - 研修体制・担当者の紹介
 - 患者紹介
- ③ 実習開始
 - 担当ナースと行動をともに実習する（「緩和ケアナース研修生チェックリスト」あり）
- ④ 進行状況をチェックし、講師と時間調整を行う。
- ⑤ 毎週末に、懇談会を行い効果的な実習になるように調整・修正する。

2) 評価

- ① 研修生と担当者・関係者と懇談
 - 研修全体について、評価・反省・感想を尋ね
 - 目的が達成されたかを確認
- ② 研修レポートの提出を要請
- ③ レポートの内容と、実習状況より評価を行う。

3) 修了式

修了証書授与

記念品贈呈

Ⅲ成果（2011年度）

<実習生実数>

上期3名、 下期 4名 計7名

<研修指導者>

研修責任者・研修オリエンテーション=看護部長

研修指導者=病棟師長、主任および日々の担当看護師、認定看護師

<研修内容>

- 1 週目：病棟オリエンテーション、在宅ホスピス見学、
日々の患者ケアに当日担当看護師と共に参加する。
- 2 週目：個人の研修目標を確認しつつ、スタッフと共に患者に関わる。
週末(金曜日)に、担当看護師・看護部長をまじえて研修生と中間評価を行う。
- 3 週目：希望者のみ夜勤研修の組み入れ・・・夜勤帯の患者の状態を把握する。
最終週としてホスピスケア全体の疑問解決に向け行動する。
最終日に病棟師長・看護部長をまじえて研修生と最終評価を行う。

<院内講義>

- | | | |
|-----------------|-------------------|--------|
| ① ホスピスにおける全人的ケア | 担当：ホスピス長 | 2時間×1回 |
| ② 症状コントロール | 担当：ホスピス医長 | 2時間×1回 |
| ③ ホスピスにおけるリハビリ | 担当：リハビリ師 | 30分×1回 |
| ④ スピリチュアルケア | 担当：病院チャプレン | 1時間×1回 |
| ⑤ ホスピスボランティア | 担当：ボランティアコーディネーター | 1時間×1回 |
| ⑥ ホスピスの食事 | 担当：管理栄養士 | 30分×1回 |
| ⑦ 口腔ケア | 担当：歯科衛生士 | 30分×1回 |

<関連実習（任意）>

- ① 在宅ホスピスケア（訪問看護同行）
- ② ホスピス外来見学
- ③ 音楽療法士、MSW等と必要に応じて懇談
- ④ 在宅ホスピスカンファレンス出席

<ビデオ学習(当院作成のビデオ)>

- ① 「いのち輝け」 25分
- ② 「いのちの質を求めて」 30分
- ③ 「幸福な死を迎えたい」 25分

<体験学習>

定期—主任の指導および担当スタッフの同行にて行う。

- ① 日勤業務
- ② 夜勤業務(任意)
- ③ 受け持ち患者とのかかわり

不定期—実習期間中の患者の状況によって実習体験は均一ではないが、良い学びとなるので、出来るだけ参加していただいている。

家族会、誕生会、お茶会、季節の催し物、看取り式・お別れ式、前夜式、院内葬儀 など

☆別紙「緩和ケアナース研修生チェックリスト」添付

所感

平成 23 年度は、計 7 名のナースの方々にお越しいただいて、共に学びあえる機会を頂きました。例年より少ない人数ではありましたが、当院の事情としまして、病院機能評価の受審や新ホスピス病棟増築など重要な多重課題の年であり、多忙な中でも研修の質を低下させることなく実施できたのではないかと考えています。研修生それぞれの背景は、すでに緩和ケア病棟で役職を持って勤務されている方、これから緩和ケア病棟新規立ち上げに関わる予定の方、あるいは一般病院の緩和ケアチームのメンバーとして活動を始める方等様々ですが、それぞれの立場での具体的な課題を持って参加され、3 週間の研修期間のなかで、充実した学びをしていただけたことと思います。最終日の振り返りの会合の中では、研修生の方々がこの研修を機に自分自身の基本的な看護観について考え直し、それを深めることができたと感じておられること、当院の理念である『癒し癒される医療』に触れ、研修生御自身も癒されたとの感想を持たれたことなどに、現場のスタッフ共々大変励まされております。

いわゆる“2025 年問題”に向けて、今後のホスピス緩和ケアの動向も変化していくことと思いますが、今回自分自身の中に新しい発見をされた研修生の方々が、今後もそれぞれの場所において、看護の基本とも言えるホスピスマインドを大切にして日々のケアを深められますようにと願いつつ、実習受け入れ施設としての役割を果たしていきたいと考えております。

栄光病院

平成 24 年 3 月
社会医療法人 栄光会

看護部長 中島長子